

◎米国のクリスチャン、過半数が同性愛を支持か

【クリスチャントゥデイ、11/09/2015】ピュー・リサーチ・センターが行った、米国人の宗教との関係をめぐるさまざまな質問を分析する包括的な研究から、成人は圧倒的に神を信じているが、その支持は減っていることが明らかになった。この調査からは、米国人クリスチャンの多くが現在では同性愛を支持しているが、中絶は同性愛に比べて支持の割合が低いことも明らかになった。3万5千人の成人の米国人を対象に行われた2014年度の宗教情勢調査（Religious Landscape Study）の分析では、全ての米国の成人人口のうち89%が神を信じていると回答した。この数字は2007年の92%から下がっている。

宗教生活でのほかの観点からも分析がなされており、成人の55%が毎日祈っていると答え、53%が宗教は非常に重要だと答え、50%が少なくとも月に1回は礼拝に出席していると答えたが、すべての数字は2007年の調査より下落した。無宗教と答えた成人の割合は16%から23%に上昇したが、その中には多様な考え方が含まれている。無宗教と回答した中の61%が神を信じていると回答したが、少なくとも月1回以上礼拝に出席していると答えたのは9%に過ぎなかった。一方、宗教を持っていると回答した者は宗教的な行動をする傾向が強く、97%が神への信仰を表明し、62%が少なくとも月1回は礼拝に出席している。

ここ数年間で行われた国の調査では、米国内で無宗教の成人の数が増えていることが明らかになっている。3月に結果が公表された全国世論調査センター（NORC）とシカゴ大学による2014年度の総合的社会調査（GSS）では、米国人の21%が無宗教であるという結果が出た。

6月4日から9月30日にかけて行われた2014年度の宗教情勢調査では、米国人クリスチャンの同性愛に代表される社会問題への姿勢は変化し続けていることが明らかになった。ローマ・カトリック、主流派、正教会、黒人教会では、それぞれの信者の50%以上が同性愛は社会に受け入れられるべきだと答えた。しかしプロテスタントの福音派では36%、モルモン教では36%、エホバの証人では16%しか同性愛に賛同しなかった。全体的に見ると、キリスト教徒の54%が同性愛は社会に受け入れられるべきだと回答した。この割合は、2007年に比べて10ポイント上昇している。

「同性愛に対する態度の変化は、米国内で宗教的アイデンティティと実践の在り方を変えている世代間の変化とリンクしています。ミレニアルズ世代は、より上の年代よりもはるかに同性愛に対して受容的です」と報告書は述べている。「例えば、プ

ロテスタント福音派と名乗るミレニアルズ世代のちょうど半分が、今では同性愛が社会に受け入れられるべきだと述べています」

キリスト教の教派のほとんどが中絶に反対する姿勢を維持しているが、特に福音派とモルモン教は最も強く反対している。

支持政党においても、着目すべき差が見られた。2014年度において、共和党支持者の82%がキリスト教徒と称しているが、民主党支持者では63%に過ぎない。一方、共和党支持者の14%が無宗教と回答したが、民主党支持者ではその数が2倍の28%となっている。民主党支持者では、自らを特に無神論者だとする成人がより多く、共和党支持者のわずか1%に対して5%に上る。

フェミニスト神学

Overview

- ・ フェミニスト神学の形成
- ・ フェミニスト神学の成果と展望

フェミニスト神学の形成

フェミニスト神学の歴史

- ・ 前史：エリザベス・スタントン『女性の聖書』（1898年）
 - ・ 「これは神の言葉を聞き間違えた男たちの言葉である」
- ・ 1960年代後半にアメリカを中心に広まった女性解放運動の一部として、フェミニスト神学は始まった。
- ・ メアリー・デイリー『父なる神を越えて』（1973年）
 - ・ 「神が男性であるなら、男性が神である」
- ・ 今日、非常に多様化している（後述）。

フェミニスト神学の目的

- ・ キリスト教における男性中心主義に対する批判とその克服。
- ・ フェミニスト神学は、単に「女性的」テーマを考察するのではなく、神学のあり方を根本的に問い直す。

フェミニスト神学の位置づけ

現代世界においては多様な女性理解が存在している。

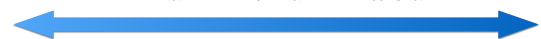
フェミニスト神学

原理主義
(例) タリバーン、IS

リベラル派

中道派

保守派



女性理解とパターナリズム

- ・それぞれの宗教で、固有の女性理解が主張され、受容されるのは「宗教の自由」「思想・信条の自由」に属する事柄であると言える。
- ・しかし、多様な女性理解があることが提示されずに、ある特定の女性理解（性別役割分業）だけが独占的に主張（強制）されるのは一種の「パターナリズム」と言える。
- ・パターナリズム：父親的温情主義

フェミニスト神学の特徴

- ・ 実体より関係を Relation over substance
- ・ 不変より変化を Change over immutability
- ・ 救済より解放を Liberation over salvation
- ・ 終末論より生態論を Ecology over eschatology

フェミニスト神学の多様性

- ・ リベラル・フェミニスト：性差を超えて自由・平等な「人間」を追求
- ・ ロマン主義的フェミニスト：「女性性」（女性特有の身体性や考え方）への着目と活用
- ・ ラディカル・フェミニスト：家父長主義的な男性社会からの分離
- ・ 普遍的な「女の経験」の脱構築（ポストモダン・フェミニスト）：白人中心主義に対する批判

フェミニスト神学の成果と展望

1. キリスト教の歴史的起源の再解釈
2. 女性の視点による聖書解釈の見直し
3. 「包含的言語」による聖書翻訳
4. 新しい神理解の形成
5. 異文化に生きる女性同士の連帯
6. エコロジー問題への新しい視座の提供
7. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯

1. キリスト教の歴史的起源の再解釈

- ・ 最初期、イエスによって促された伝統的価値観からの自由は、特に終末待望に裏付けられた宣教的情熱と結びついて存続した。そこでは男女が平等に参与する共同体が存在していた。
- ・ 後に、ヘレニズム・ローマ社会の家父長制や性的二元論に順応するようになっていく。

2. 女性の視点による聖書解釈の見直し

- ・ 男性の解釈者によって、しばしば無視されてきた、女性をめぐる言説・物語を再発見する。
- ・ 性差別表現を含め、聖書中に性・性役割に関して内容的にはっきりと矛盾する箇所があることを認識することによって、ある特定の箇所が排他的に用いられることの恣意性と危険性を喚起する。
- ・ コロ3:18（男女の支配・服従の関係を強化）とガラ3:28（それを否定）
- ・ 一テモ2:15（性と生殖とが一致した家父長制社会を代弁）とルカ11:27-28（それを破棄）

3. 包含的言語 (inclusive language) による聖書翻訳

- ・ 両性に対し平等であるよう、聖書翻訳や礼典の表現が見直されている。
- ・ 例：「主の祈り」における神への呼びかけ
 - ・ Our Father in heaven
 - ↓
 - 1) Our heavenly Parent
 - 2) Our Father-Mother in heaven
 - 3) Abba God in heaven

4. 新しい神理解の形成

- ・ 神の女性性を表す伝承に注目する。
- ・ たとえば、知恵文学における「知恵」（ソフィア）の働きや、ガイアとしての神など、従来の神理解には見られなかった側面を際だたせている。

5. 異文化に生きる女性同士の連帯

- ・ 「女性」という言葉によって、もっぱら白人女性を意味していた、という初期フェミニズムへの反省を継承しながら、欧米以外の女性の声に積極的に耳を傾けようとする。
- ・ しかし、「女性」の視点の多様性と普遍性をどのように理解するかについては、今も議論が続いている。

6. エコロジー問題への新しい視座の提供

- ・ 代表的なフェミニスト神学者たちの多くは、エコロジーの問題をフェミニスト神学の重要な課題と考えている。
- ・ 男性によって抑圧されてきた女性と、人間（男性）によって抑圧されてきた自然の間に相関関係を見ている。
- ・ 環境の神学——サリー・マクフェイグ「神の体」（The Body of God）
 - ・ 世界を「神の体」とみなすメタファーとしての有効性と共に限界も自覚している。"I am not even afraid of pantheism; the line between God and the world is fuzzy" (S. McFague, *A New Climate for Theology: God, the World, and Global Warming*, 2008, p.120).

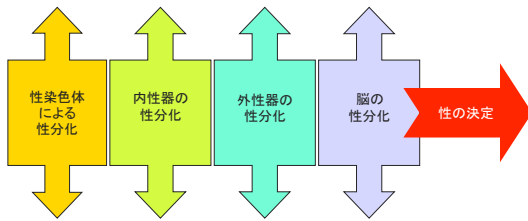
7. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯

- ・ 同性愛者は伝統的に性差別の対象とされることが多かったが、フェミニスト神学が獲得してきた聖書解釈や神学上の方法論は、セクシュアル・マイノリティのアイデンティティ獲得のためにも有益である。
- ・ 「クィア神学」の形成

同性愛差別の正当化のために用いられてきた聖書箇所

- ・ 正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。（コリントの信徒への手紙—6:9-10）
- ・ それで、神は彼らを恥ずべき情欲にまかせられました。女は自然の関係を自然にもとるものに変え、同じく男も、女との自然の関係を捨てて、互いに情欲を燃やし、男どうしで恥ずべきことを行い、その迷った行いの当然の報いを身に受けています。（ローマの信徒への手紙1:26-27）

生物学的研究成果から見た性



同性愛者に対する差別

- ・ キリスト教保守派は同性愛反対の立場
- ・ 現代の米国キリスト教における最大の問題の一つは同性愛
- ・ 同性婚を認めるか？
- ・ 同性カップルを「祝福」することができるか？
- ・ 同性愛者を聖職者として認めることができるか？ この議論により、米・聖公会や長老教会は二分。

【参考文献】

- ・ R=R・リューサー『性差別と神の語りかけ——フェミニスト神学の試み』新教出版社、1996年。
- ・ エリザベス・シュスラー・フィオレンツァ『彼女を記念して——フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』日本基督教団出版局、1990年。
- ・ E・モルトマン=ヴェンデル、J・モルトマン『女の語る神・男の語る神』新教出版社、1994
- ・ 大越愛子『女性と宗教』岩波書店、1997。（諸宗教における性差別を扱っている）
- ・ 宮谷宣史編『性の意味——キリスト教の視点から』新教出版社、1999年。
- ・ パトリック・チェン『ラディカル・ラブ——クィア神学入門』新教出版社、2014年。